
2017年度（平成29年度）

事業報告書

平成30年5月25日

学校法人 玉手山学園

I. はじめに

“夢と志を育てる” 学園をめざす 第2期(2013~2017)学園中長期計画 最終年度

第3期(2018~2022) 学園中長期計画を策定

具体的(簡明 数値目標)、実用的、精選、特長(インパクト)をキーワードに、幾度も協議を重ね“学園のすべきこと”を定めました(2018.1 理事会)。創意工夫を凝らし、実直に試行(実践)、必ず実現させ、それを可視化し発信すること重要です。

“夢と志を育てる”、「この学園に来たら元気・やる気が出てきた、夢中になるものが見つかった。」これをめざし実践し続ければ、学園は必ず必要とされ、選ばれ、良質の教育を提供し続けることが叶います。教職員各々の力の結集が求められます。

“Kanjo こども園”(2018.4~)の準備 自園調理も



▲ 「食育」を重視 芳り、温かみ、調理から

“良質の教育を長時間、0歳から”という社会のニーズに
応えるため、幼稚園は2018年4月、“認定こども園”に
進化します。Kanjo こども園の教育を一層充実させ、さらに
「食育」を重視し自園調理の施設も設置しました。0~5歳
の一貫教育は、とても大切であり責任重大です。0~2歳児
の新棟も2019年2月竣工の予定です。

高校本館竣工と大学開学20周年 だから *Tama Project 2017*

2017年8月27日(日)に「玉手山学園祭」(学園初の試み)をAll玉手山で開催しました。色々と心配事もありましたが、できない理由ではなく、できる方法を考える、“Yattemiyou”の気概で完遂。学園力(元気さ・存在感)を感じ、大勢(約5,000人)で汗をかき楽しみ、学園(学生、教職員)が、また一つ成長できたと思っています。



▲ 玉手山学園祭(2017.8) 大勢の地元の方が

短大 2 号館解体⇒学園新校舎 蜂の巣校舎解体⇒Tama Square (仮称)

上記の二つの校舎を解体しました。その後は *For the students* の視座で、「語って 遊んで 寛いで “もうこんな時間”、気づけば自分を磨いて(トレーニング、勉強)いる。」そんなコンセプトで構想しました。2018 年以降に計画決定、着工いたします。



▲ 学園新校舎イメージ

2018 年度中着工 学生を“大化け”させる



▲ Tama Square (仮称) イメージ 学園初の広場

大勢で賑わい 快適空間 ゴキゲン♪

学園“災害時”基本行動

学園の大きな力、それは大勢の学生・生徒たちの存在、“自分に何かできることはないか”と感じる豊かな心です。「何ができるのか」の行動構想(案)の作成を大学主導でスタートさせました。まさかの災害時に学園は頼られます。学園の一つの使命であり、街の人の安心・感謝は学園の成長にもつながることを理事会(2017.3)で確認しました。

<防災啓発イベント(2018.3) 柏原市と共催 於：学園総合体育館“Do 夢”>



▲ 柏原市長 江端理事長・学園長 対談
学生・高校生も参加



▲ AED 講習会
本学の学生と消防職員が講師

学園総力結集の“2017 年度 教育事業”を報告いたします。教職員の尽力に感謝。

思 感

2018 年 5 月 25 日

理事長・学園長 江端 源治

建学の精神「感恩」

人は さまざまな恩恵のもとで 生かされている
この真理に目覚め 感動と感謝から生まれる 豊かな心と情熱をもって
人の幸せを願い 行動するとき 私たちは成長し 社会に貢献できる

～「ありがとう」に出会い 気づき 感動 感謝の行動から
新しい「ありがとう」が生まれる～

使命

建学の精神「感恩」を 実践する人を育成し 豊かな未来社会をつくる

綱領

1. 学生 生徒 園児のもてる力 志をひきだす
その教育実践により 学園職員も豊かになる
2. 教育人としての自覚のもと 自己の能力および人格の向上に努め
その使命を誠実に遂行し 未来を拓く「知」を継承 創造する
3. 各校園は 教育理念のもと 具体的な教育目標を掲げ
常に改革の意識をもって 創意工夫 試行を重ね その達成に総力を結集する
4. 継続 発展を支える確かな組織力と 健全な財政基盤を確立する

ビジョン

【玉手山学園の実践・実現】

1. 夢と志を育てる学園（学園ブランドに）
～笑顔 あいさつ 優しさを大切に～
2. 学園教育力の向上
 - ・教育の質向上（学修成果（できるようになる）・修学成就）
 - ・組織安定
 - ・4 校園体制堅持（大学 短期大学 高等学校 認定こども園）
 - ・健全収支
3. 地域貢献 社会に愛され 成長する学園
4. 教育環境の充実（安心 安全 快適 ECO）
5. 学園総合力の向上
 - ・各校園の相互協力（学園ファミリー意識）

II. 法人の概要

1. 沿革

| 年月日 | | 沿革 |
|---------|------|---|
| 昭和 17 年 | 3 月 | 財団法人山田学園認可 玉手山高等女学校 設置認可 |
| 昭和 22 年 | 4 月 | 玉手山中学校 設置 玉手山女子専門学校 設置 |
| 昭和 23 年 | 4 月 | 学制改革により玉手山高等学校と改称 |
| 昭和 25 年 | 3 月 | 玉手山女子専門学校 廃止 |
| 昭和 26 年 | 3 月 | 学校法人玉手山学園に組織変更 |
| 昭和 40 年 | 3 月 | 玉手山中学校 廃止 |
| 昭和 40 年 | 4 月 | 玉手山女子短期大学 家政科・保育科 設置 玉手山女子短期大学附属幼稚園 設置 |
| 昭和 41 年 | 10 月 | 玉手山女子短期大学を関西女子短期大学に改称 玉手山女子短期大学附属幼稚園を関西女子短期大学附属幼稚園に改称 |
| 昭和 42 年 | 4 月 | 関西女子短期大学 保健科 設置 |
| 昭和 45 年 | 4 月 | 関西女子短期大学附属歯科技工士学院 設置 (昭和 56 年関西女子医療技術専門学校へ移行) |
| 昭和 49 年 | 3 月 | 関西女子短期大学 家政科 廃止 |
| 昭和 49 年 | 4 月 | 玉手山高等学校を関西女子短期大学附属高等学校に改称 |
| 昭和 56 年 | 4 月 | 関西女子短期大学附属歯科技工士学院を改組の上、関西女子医療技術専門学校医療秘書学科設置 |
| 平成 4 年 | 4 月 | 関西女子医療技術専門学校 ビジネス秘書学科 設置 |
| 平成 7 年 | 3 月 | 関西女子医療技術専門学校 歯科技工士学科 廃止 |
| 平成 7 年 | 4 月 | 関西女子医療技術専門学校 理学療法学科 設置 |
| 平成 8 年 | 4 月 | 関西女子医療技術専門学校 作業療法学科・介護福祉学科 設置 関西女子医療技術専門学校 医療秘書学科とビジネス秘書学科を統合し、医療ビジネス学科に改称 |
| 平成 9 年 | 4 月 | 関西福祉科学大学 社会福祉学部社会福祉学科 設置 |
| 平成 10 年 | 4 月 | 関西女子短期大学附属高等学校を関西福祉科学大学高等学校に改称 関西女子医療技術専門学校を関西医療技術専門学校に改称し、男女共学実施 |
| 平成 11 年 | 4 月 | 関西福祉科学大学高等学校 特別進学コースのみ男女共学実施 |
| 平成 13 年 | 4 月 | 関西福祉科学大学大学院 社会福祉学研究科臨床福祉学専攻 設置 関西女子短期大学 福祉栄養学科 設置 関西医療技術専門学校 介護福祉専攻科 設置 |
| 平成 15 年 | 4 月 | 関西福祉科学大学 社会福祉学部臨床心理学科 設置 健康福祉学部健康科学科・福祉栄養学科 設置 関西福祉科学大学大学院 社会福祉学研究科臨床福祉学専攻 (博士後期課程) 設置 社会福祉学研究科心理臨床学専攻 設置 |
| 平成 16 年 | 3 月 | 関西女子短期大学 福祉栄養学科 廃止 |

| 年月日 | | 沿革 |
|---------|-----|--|
| 平成 17 年 | 4 月 | 関西女子短期大学 歯科衛生学科 (3 年制) 設置 |
| 平成 18 年 | 4 月 | 関西医療技術専門学校 医療ビジネス学科を診療情報管理学科・診療情報管理専攻科に改組 関西福祉科学大学高等学校 3 コース制導入 (特別進学 I、特別進学 II、総合進学) |
| 平成 21 年 | 3 月 | 関西医療技術専門学校 介護福祉専攻科 廃止 |
| 平成 22 年 | 4 月 | 関西福祉科学大学 特別支援教育専攻科 設置 |
| 平成 23 年 | 3 月 | 関西医療技術専門学校 診療情報管理専攻科 廃止 |
| 平成 23 年 | 4 月 | 関西福祉科学大学 保健医療学部リハビリテーション学科理学療法学専攻・作業療法学専攻 設置 関西女子短期大学 医療秘書学科・医療秘書学専攻科 設置 |
| 平成 24 年 | 3 月 | 関西医療技術専門学校 介護福祉学科・診療情報管理学科 廃止 |
| 平成 25 年 | 3 月 | 関西医療技術専門学校 廃止 |
| 平成 25 年 | 4 月 | 関西福祉科学大学高等学校 3 コース制を 4 コース制に改編 (特別進学 I、特別進学 II、進学、保育進学) |
| 平成 25 年 | 8 月 | 関西福祉科学大学附属総合リハビリテーション診療所 設置 (9 月診療開始) |
| 平成 26 年 | 4 月 | 関西女子短期大学 保育科を保育学科に、保健科を養護保健学科に名称変更 |
| 平成 27 年 | 4 月 | 関西福祉科学大学 保健医療学部リハビリテーション学科言語聴覚学専攻 設置 |
| 平成 28 年 | 4 月 | 関西福祉科学大学 心理科学部心理科学科 設置 教育学部教育学科子ども教育専攻・発達支援教育専攻 設置 |
| 平成 29 年 | 3 月 | 関西福祉科学大学 特別支援教育専攻科 廃止 |

2. 設置する学校

| 学校名 | 学部・学科・専攻等 | 開設年度 | |
|---------------|-------------|------------------|---------|
| 関西福祉科学大学 | 社会福祉学研究科 | 臨床福祉学専攻 (博士前期課程) | 平成 13 年 |
| | | 臨床福祉学専攻 (博士後期課程) | 平成 15 年 |
| | | 心理臨床学専攻 (修士課程) | 平成 15 年 |
| | 社会福祉学部 | 社会福祉学科 | 平成 9 年 |
| | | 臨床心理学科 | 平成 15 年 |
| | 心理科学部 | 心理科学科 | 平成 28 年 |
| | 教育学部 | 教育学科 | 平成 28 年 |
| | | 子ども教育専攻 | |
| | | 発達支援教育専攻 | |
| | 健康福祉学部 | 健康科学科 | 平成 15 年 |
| | | 福祉栄養学科 | 平成 15 年 |
| 保健医療学部 | リハビリテーション学科 | 平成 23 年 | |
| | 理学療法学専攻 | | |
| | 作業療法学専攻 | | |
| | 言語聴覚学専攻 | | |
| 関西女子短期大学 | 保育学科 | 昭和 40 年 | |
| | 養護保健学科 | 昭和 42 年 | |
| | 歯科衛生学科 | 平成 17 年 | |
| | 医療秘書学科 | 平成 23 年 | |
| | 医療秘書学専攻科 | 平成 23 年 | |
| 関西福祉科学大学高等学校 | 全日制課程普通科 | 昭和 17 年 | |
| 関西女子短期大学附属幼稚園 | | 昭和 40 年 | |

※関西福祉科学大学社会福祉学部臨床心理学科は平成 28 年 4 月より学生募集停止

3. 学生・生徒・園児数

<関西福祉科学大学>

(単位：名)

| 研究科・学部・学科・専攻等 | | 入学定員 | 編入学定員 (3年次) | 学年 進行中の 収容定員 | H29年度在籍者数(現員) H29.5.1 | | | | | H28年度 卒業生数 |
|---------------|-----------------|------|----------------|--------------------|--------------------------|-----|-----|-----|-----|---------------|
| | | | | | 1年生 | 2年生 | 3年生 | 4年生 | 計 | |
| 社会福祉学 研究科 | 臨床福祉学専攻(博士前期課程) | 20 | 0 | 40 | 3 | 8 | | | 11 | 1 |
| | 臨床福祉学専攻(博士後期課程) | 3 | 0 | 9 | 1 | 2 | 0 | | 3 | 0 |
| | 心理臨床学専攻(修士課程) | 10 | 0 | 20 | 10 | 6 | | | 16 | 9 |
| 大学院 計 | | 33 | 0 | 69 | 14 | 16 | 0 | | 30 | 10 |
| 社会福祉学部 | 社会福祉学科 | 140 | 20 | 680 | 141 | 165 | 187 | 195 | 688 | 168 |
| | 臨床心理学科 | | 20 | 180 | | | 57 | 83 | 140 | 79 |
| 計 | | 140 | 40 | 860 | 141 | 165 | 244 | 278 | 828 | 247 |
| 心理科学部 | 心理科学科 | 110 | | 220 | 85 | 100 | — | — | 185 | — |
| 計 | | 110 | 0 | 220 | 85 | 100 | — | — | 185 | — |
| 教育学部 | 教育学科 | 100 | 0 | 200 | 80 | 80 | — | — | 160 | — |
| | 子ども教育専攻 | 50 | 0 | 100 | 27 | 26 | — | — | 53 | — |
| | 発達支援教育専攻 | 50 | 0 | 100 | 53 | 54 | — | — | 107 | — |
| 計 | | 100 | 0 | 200 | 80 | 80 | — | — | 160 | — |
| 健康福祉学部 | 健康科学科 | 80 | 10 | 340 | 86 | 76 | 82 | 93 | 337 | 83 |
| | 福祉栄養学科 | 80 | 5 | 330 | 85 | 75 | 77 | 64 | 301 | 76 |
| 計 | | 160 | 15 | 670 | 171 | 151 | 159 | 157 | 638 | 159 |
| 保健医療学部 | リハビリテーション学科 | 170 | 0 | 620 | 194 | 164 | 153 | 109 | 620 | 97 |
| | 理学療法学専攻 | 80 | 0 | 320 | 89 | 78 | 80 | 80 | 327 | 58 |
| | 作業療法学専攻 | 50 | 0 | 180 | 61 | 52 | 48 | 29 | 190 | 39 |
| | 言語聴覚学専攻 | 40 | 0 | 120 | 44 | 34 | 25 | — | 103 | — |
| 計 | | 170 | 0 | 620 | 194 | 164 | 153 | 109 | 620 | 97 |
| 大学 計 | | 680 | 55 | 2,570 | 2,431 | | | | 503 | |

(「平成29年度学校基本調査(平成29年5月1日現在)」より)

※社会福祉学科は平成28年4月より入学定員変更 180名→140名

※社会福祉学科は平成28年4月より編入学定員変更 40名→20名

※臨床心理学科は平成28年4月より学生募集停止

※心理科学科、教育学科は平成28年4月開設

※リハビリテーション学科作業療法学専攻は平成28年4月より入学定員変更 40名→50名

※リハビリテーション学科言語聴覚学専攻は平成27年4月開設

<関西女子短期大学>

(単位：名)

| 学科・専攻科 | 入学定員 | 収容定員 | H29年度在籍者数(現員) H29.5.1 | | | | H28年度 卒業生数 |
|----------|------|------|--------------------------|-----|-----|-----|---------------|
| | | | 1年生 | 2年生 | 3年生 | 計 | |
| 保育学科 | 120 | 220 | 128 | 109 | | 237 | 112 |
| 養護保健学科 | 40 | 80 | 48 | 37 | | 85 | 49 |
| 歯科衛生学科 | 100 | 300 | 118 | 115 | 109 | 342 | 115 |
| 医療秘書学科 | 40 | 100 | 48 | 41 | | 89 | 53 |
| 短大 計 | 300 | 700 | 342 | 302 | 109 | 753 | 329 |
| 医療秘書学専攻科 | 10 | 10 | 0 | | | 0 | 0 |

(「平成29年度学校基本調査(平成29年5月1日現在)」より)

< 関西福祉科学大学高等学校 >

(単位：名)

| 学校名 | 入学定員 | 収容定員 | H29年度在籍者数(現員) H29.5.1 | | | H28年度 卒業生数 |
|--------------|------|------|--------------------------|-----|-----|---------------|
| | | | 1年生 | 2年生 | 3年生 | |
| 関西福祉科学大学高等学校 | 270 | 810 | 324 | 410 | 355 | 315 |
| 高校 計 | 270 | 810 | 1,089 | | | 315 |

※入学定員は公募入学定員を表記 (H27年度 270名、H28年度 270名、H29年度 270名)
学則上の入学定員は 470名

< 関西女子短期大学附属幼稚園 >

(単位：名)

| 学校名 | 入学定員 | 収容定員 | H29年度在園児数(現員) H29.5.1 | | | | H28年度 卒園児数 |
|---------------|------|------|--------------------------|-----|-----|-----|---------------|
| | | | 最年少 | 年少 | 年中 | 年長 | |
| 関西女子短期大学附属幼稚園 | — | 495 | 1 | 115 | 115 | 140 | 118 |
| 幼稚園 計 | — | 495 | 371 | | | | 118 |

※最年少は満3歳児クラスを示す

4. 役員・教職員の人数

(1) 役員

(単位：名)

| 役員、評議員 | 定員数 | 現員 |
|--------|-------|----|
| 理事 | 8～10 | 9 |
| 監事 | 2～3 | 2 |
| 評議員 | 21～25 | 24 |

(平成29年5月1日現在)

(2) 教職員数

(単位：名)

| 学校名 | 教員 | | 職員 | |
|--------------------------|--------|-----|--------|----|
| | 本務(専任) | 兼務 | 本務(専任) | 兼務 |
| 関西福祉科学大学 | 138 | 62 | 49 | 22 |
| 関西女子短期大学 | 36 | 49 | 14 | 25 |
| 関西福祉科学大学高等学校 | 60 | 37 | 5 | 13 |
| 関西女子短期大学附属幼稚園 | 19 | 4 | 0 | 14 |
| 法人 | 0 | 0 | 2 | 1 |
| 法人本部 | 0 | 0 | 17 | 13 |
| 関西福祉科学大学附属総合リハビリテーション診療所 | 0 | 0 | 7 | 4 |
| 合 計 | 253 | 152 | 94 | 92 |

※兼務職員数は学生アルバイトを除いた人数にて示す

(平成29年5月1日現在)

〔専任教員内訳〕

＜関西福祉科学大学＞

(単位：名)

| 学部・学科 | | 大学設置基準上 必要な専任教員数 | | 教授 | | 准教授 | | 講師 | | 助教 | | 助手 | | 計 | |
|----------------------|-------------|---------------------|------|----|----|-----|----|----|----|----|---|----|---|----|----|
| | | 専任教員 | うち教授 | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 |
| 社会福祉学部 | 社会福祉学科 | 14 | 7 | 5 | 6 | 5 | 7 | 0 | 3 | 1 | 1 | 0 | 0 | 11 | 17 |
| 心理科学部 | 心理科学科 | 10 | 5 | 8 | 2 | 0 | 3 | 2 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 10 | 6 |
| 教育学部 | 教育学科 | 10 | 5 | 9 | 4 | 3 | 3 | 2 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 14 | 8 |
| 健康福祉学部 | 健康科学科 | 14 | 7 | 6 | 3 | 3 | 3 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 9 | 7 |
| | 福祉栄養学科 | 10 | 5 | 5 | 2 | 1 | 5 | 2 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 8 | 8 |
| 保健医療学部 | リハビリテーション学科 | 17 | 9 | 11 | 2 | 4 | 6 | 4 | 5 | 5 | 1 | 0 | 0 | 24 | 14 |
| 大学全体の収容定員に応じ定める専任教員数 | | 28 | 14 | / | / | / | / | / | / | / | / | / | / | / | / |
| 合 計 | | 103 | 52 | 44 | 19 | 16 | 27 | 10 | 12 | 6 | 2 | 0 | 0 | 76 | 60 |

※臨床心理学科は、心理科学部へ改組のため平成 28 年 4 月より学生募集停止 (平成 29 年 5 月 1 日現在)

※専任教員数には、臨床心理学科 (2 名) を除き、学長・副学長兼務者 (2 名) を含む

＜関西女子短期大学＞

(単位：名)

| 学科 | 短大設置基準上 必要な専任教員数 | | 教授 | | 准教授 | | 講師 | | 助教 | | 助手 | | 計 | | |
|------------------------|---------------------|------|----|---|-----|---|----|---|----|---|----|---|---|----|----|
| | 専任教員 | うち教授 | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | |
| 保育学科 | 10 | 3 | 1 | 2 | 0 | 4 | 1 | 2 | 0 | 0 | 0 | 1 | 2 | 9 | |
| 養護保健学科 | 4 | 2 | 3 | 0 | 0 | 2 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 3 | 3 | |
| 歯科衛生学科 | 6 | 2 | 2 | 4 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | 2 | 0 | 3 | 2 | 11 | |
| 医療秘書学科 | 4 | 2 | 2 | 0 | 0 | 2 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 3 | 3 | |
| 短期大学全体の入学定員に応じ定める専任教員数 | | 5 | 2 | / | / | / | / | / | / | / | / | / | / | / | |
| 合 計 | | 29 | 11 | 8 | 6 | 0 | 8 | 2 | 6 | 0 | 2 | 0 | 4 | 10 | 26 |

※専任教員数には、学長兼務者 (1 名) 含む

(平成 29 年 5 月 1 日現在)

＜関西福祉科学大学高等学校＞

＜関西女子短期大学附属幼稚園＞

(単位：名)

| 学校名 | 専任教員数 | | 計 |
|---------------|-------|----|----|
| | 男 | 女 | |
| 関西福祉科学大学高等学校 | 45 | 15 | 60 |
| 関西女子短期大学附属幼稚園 | 1 | 18 | 19 |

(平成 29 年 5 月 1 日現在)

Ⅲ. 事業の概要（主な事業内容および進捗状況）

関西福祉科学大学

1. 笑顔、あいさつの励行（教職員から学生に）

- ・対人援助職を目指す学生に対するマナー教育推進のため、各種会議で教職員から学生に対する笑顔やあいさつの励行を確認し、教職員から学生に対して笑顔やあいさつを率先した。
- ・大学事務局では毎月第2週を「あいさつ週間」と定め、6月より学生に対して率先したあいさつを実施した。

2. 学生の修学力向上（準備学習の実質的増加）、卒業率の向上（退学・休学者対策の実質化）

（1）学生の修学力向上

- ・国家試験対策等を通じた学修や予習・復習の呼びかけを徹底した結果、自学自修は概ね定着した。また、事前課題や小テスト、中間評価を行うことで学修時間が増加するよう努めた。
- ・より主体的な学修時間増加を促すツールとして manaba の有効活用が課題として残った。

（2）卒業率の向上

- ・アカデミックアドバイザー（AA）制度を活用し、中途退学者の減少に向けた学生フォロー体制を強化したほか、就学困難な学生について教職員で連携して対応した。

3. 国家試験、各種資格試験等の合格支援

- ・クラス別対策講座、集中講座、学びに応じた面談指導を実施し、国家試験対策に係る環境整備を行った。
- ・養護教諭の合格者数が過去最高値（現時点で 32 名）を達成したほか、各学科においても好成績を残した。

4. 新学部の円滑な運営

（1）心理科学部

- ・3年への進級時にゼミ担当教員によって2コースに分かれるよう学生を指導し、それぞれのコースの特徴が出るような講義内容とした。
- ・公認心理師法施行を受け、公認心理師受験資格確認申請を取りまとめて3月末に文部科学省及び厚生労働省宛に申請手続きを完了した。

（2）教育学部

- ・学部の魅力を伝えるため、パンフレットを改訂し、高校生向けの教職および保育職を紹介する冊子を作成した。これらを用いて、学生募集体制を強化した。
- ・学部設置時における大学設置室の留意事項を踏まえた AC 教員審査を行うとともに、学部運営体制の効率化を図るため、役割分担を見直した。

5. 広報活動の活性化

- ・Web 広告の効果的な実践や運用のためにアクセス解析を行い、その結果をもとに Web 広告を強化したほか、業者委託により情報更新をしている一部のページについても内製化でできるよう調整した。

- ・Web 広告実施期間中に本学 HP の閲覧数増加がみられるなど、Web 広告を実施＝認知度アップの効果が見られた。

関西女子短期大学

1. ミッションの明確化と広報活動の充実

- ・ミッションについて、教員に対しては学科会議や学内・外オリエンテーション、学生に対しては入学時のオリエンテーション及びゼミ等で説明を徹底することで理解・定着させた。
- ・オープンキャンパスでは AO 入試対策講座および面接対策講座の追加開催に加え、バス動員企画や高校生が魅力を感じる体験授業を実施し参加者数の持ち直しに繋げた。
- ・Web バナー広告（ターゲティング・リスティング）を実施したほか、各学科勉強会を実施することで学科の強みを把握した広報資料を作成した。

2. 教育改革推進

- ・3 ポリシーに基づくカリキュラムマップを作成し、学修成果との整合性を図った。
- ・カリキュラムマップに基づくシラバスを作成し、共通教育科目では「ポピュラーコース」と「韓国語」を新設することで科目の充実を図った。
- ・ゼミ教育を充実させるため、夢ノートの改定を行った。
- ・学修成果は授業の出欠と相関関係にあるため、出席管理を徹底する体制を整備した。

3. 就職活動支援とキャリア形成支援の充実

- ・毎月の学生支援委員会（短大部会）における情報共有や連絡カードの積極的活用の結果、退学者を 8 名（保育学科 2 人、養護保健学科 1 人、歯科衛生学科 3 人、医療秘書学科 2 人）に止めることができた。
- ・インターネットを利用した求人検索システムの充実に取り組んだほか、学生の就職活動状況を共有し、未内定の学生に対して漏れなく連絡・フォローする体制を整えた。
- ・事業所・卒業生卒業後 1 年目アンケート、卒業後 3 年目アンケートを実施し、卒業生の動向を把握した。より精度の高い調査にするため、アンケートの回収率向上が課題である。

4. 学園内学校園との連携強化

- ・各学科の特性を生かし、幼稚園、高校、大学と連携を強化した。
- ・課外活動のイベント情報や活動報告をサイボウズ及びサイネージを活用して発信したほか、クラブ顧問会議を開催し、大学・短大の連携強化クラブの環境整備に努めた。

関西福祉科学大学高等学校

1. 生徒が、生き生きと学校生活を送ることができるよう、次の5項目を実践

- ① 授業を大切に ② 時間を守る ③ 笑顔で挨拶
- ④ 「ありがとう」の心を大切に ⑤ 課外活動を活発に

- ・生徒が充実した学校生活を送れるように、建学の精神「感恩」を基に5項目を意識した取り組みを実践した。
- ・4コース制の推進と実践においては、一人ひとりの進路実現に向け、進路説明会や受験補講、学習合宿、小論文対策、個別懇談などに取り組んだ。また、保育進学コースにおいては、3年間の集大成として「卒業公演」（ピアノ・太鼓演奏、劇、美術・家庭科の作品発表など）を実施した。

2. 生徒の進路目標実現のため、教育の質の向上

- ・高大・高短連携推進において、大学との連携では高大連携授業（高校生が本大学の講義を受講体験できる）を実施。短大とは、保育学科教員による通年授業「こどもと保育」「こども文化」「保育総合実習」を実施。また、各学年全コースに本大学・短大の学内進学説明会を実施した。
- ・幼稚園との連携においては、保育進学コース1年の幼稚園実習と3年の「夏祭り」（お店屋さんごっこ）を実施した。
- ・併設大学51名・併設短大39名が内部進学し、外部も合わせると324名（大学183名、短大62名、専門学校79名）が進学を果たす。

3. 課外活動へ積極的に参加できる教育環境の整備

- ・新入生対象のクラブ紹介を実施し、その後、体験入部期間を1週間設け、生徒が課外活動に積極的に参加できるようにした。
- ・高校マイクロバス利用により、クラブ移動、遠征試合、合宿などへの利便性を向上させ、また、本学園グラウンドのみならず外部グラウンド（太子町立総合スポーツ公園）も借用し、部活動の練習場所を確保した。

4. 生徒の満足度を上げる取り組みを実践

- ・保護者を対象とした「満足度調査」、生徒による「授業アンケート」を刷新し、より「わかる授業」へと取り組んだ。また、学校行事の見直しを図るなど、生徒の要望については内容を吟味した上で対応するように努め、満足度が更に上がるよう実践した。

関西女子短期大学附属幼稚園

1. 生活環境・施設整備の充実と、楽しく活気ある幼稚園の構築

本園の特色である「お山のひろば」や園庭を活用して、同年齢の友達だけでなく、異年齢の友達と遊ぶことを意識的に取り入れることで、人とかかわる力をはぐくみ、社会性を育てることができた。また、園庭開放やオープンスクールで卒園生や近隣の未就園児の幼稚園への来園数が増えてきている。未就園児の保護者も幼稚園の様子を知ることができ、広い園庭での遊びを楽しんでいる様子が見られる。

2. 保育実践力、教員として望ましい資質・能力の向上

教職員は職務を円滑に進めるために、研修会に積極的に参加し報告会を行うなど、情報や目標を共有しながら、お互いの立場を尊重し、信頼関係を深め、協同して園児の教育に励んでいる。

3. 魅力ある「子育て支援体制」の具現化

地域の学校教育・保育の需要をはじめ、子ども・子育てに係るニーズを調査し、その結果に基づいて、子育て支援ニーズへの本園の対応を検討した。また、未就園児親子クラス「ぴよぴよ、ころころクラス」では、園に連絡なく欠席や途中退会が見受けられたので、次年度は、必要な手続きを十分に説明し、親子で楽しめる魅力的な活動を検討するなど、内容の充実を図っていく。

4. 認定こども園開設の準備

認定こども園として、平成 30 年 4 月 1 日より「認定こども園 関西女子短期大学附属幼稚園」へ移行することが決定した。認定こども園申請にあたり、柏原市と話し合いの場を設け、法人本部経営企画室と連携し準備を進め、平成 30 年 3 月に認定を受け開設する運びとなった。

5. 魅力的な広報活動の実施と園児の確保

日々の活動を中心に、園庭開放や行事の観劇会等などで、保護者も園に来ていただき遊びに参加しながら、園の様子を知り、幼稚園体験ができるようにした。月々の園庭開放では、季節に合わせて、親子で遊べるものを製作したり、暑い時期は水遊びを存分にできるようにした。また、本園に就園予定の園児に向けて、幼稚園体験日を設け、親子で幼稚園生活の体験を保護者も楽しめるようにした。今後も続けて取り組んでいく。

法人本部

1. 教育環境の充実 - 学園新校舎計画の推進

認定こども園（平成 30 年 4 月）開設準備

短大 2 号館解体跡地に計画される学園新校舎については、前年度（平成 28 年度）より実施していた学園内関係者の要望事項の採否を検討し、試設計をもとに理事会に報告し、審議・可決された。学生委員 10 名を含む建設委員会を立ち上げ、学生目線に立った教育環境の充実を目指し計画立案を推進中。

また、認定こども園開設に向け、幼稚園と協働し、基本事項の検討・策定、申請書類・重要事項説明書等の作成、運営規程の制定、園則の改正など諸準備を行った。平成 30 年 3 月 30 日付で大阪府より認定を受け、平成 30 年 4 月 1 日より、「認定こども園 関西女子短期大学附属幼稚園（愛称“*Kanjo* こども園”）」としてスタートすることとなった。

2. 地域連携事業のための企画・提案の推進

原川沿いの桜ライトアップ、玉手山学園スポーツ教室、柏原市民総合フェスティバルに加え、大和川氾濫に備えた水害対策訓練への参加や柏玉連携防災啓発イベントの開催を通して、地域住民の方々に学園をより知っていただき、学生・生徒・園児が成長できる機会を各所属と調整を行いつつ、柏原市との連携により実施することができた。

引続き「柏玉」包括連携協定の具現化・実践に努める。

また、地域連携を推進させるため、平成 30 年度地域連携公認プログラムの精査を実施した。

3. Táma Próject 2017 の実行

大学開学 20 周年・高校新校舎竣工を記念し、「玉手山学園祭～みんなが参加できるオープンフェスティバル～」(H29/8/27) を実施。地元市民を中心に、本学学生・生徒・園児、教職員含め、述べ 5,188 名が参加した。当日は、記念品として製作したオリジナル T シャツを、学園関係者(約 1,400 名)にて着用し、愛校心・一体感の醸成を図った。また、トートバッグやオリジナルジュースも製作し、来場者へ配布。地元市民の方々との交流を深めつつ、学園の PR を行った。

食堂デザイン刷新は「おいしい、お洒落、居心地がいい、落ち着ける」をコンセプトに、平成 31 年度のオープンに向けて検討中。

学園グッズ製作は、「友達に自慢したくなるもの」をコンセプトに、平成 30 年度の販売に向けて検討中。

4. 職員のさらなる能力開発、視野・見識の拡大

平成 29 年度 JMA 大学 SD フォーラム、私学経営研究会 (SKK) セミナー、私学経営者協議会セミナー、撰壇塾のプログラムを職員に案内し積極的な参加を推進した。また個人情報保護研修会の実施支援、安全運転講習会・メンタルヘルス研修会を実施した。

また、教職員の視野・見識の拡大を目的とし、玉手山学園教職員として、「知っておくべきこと」・「知っておいたほうがいいこと」をまとめた「平成 30 年度版 教職員必携 玉手山学園 A to Z」を発行した。今後も定期的に掲載情報の更新を行う予定。

5. 安定した財政基盤の維持

少子化の影響で学生・生徒の確保が厳しい状況のなか、当年度は学生・生徒が増加したことにより学生生徒等納付金収入が前年度より増加した。しかしながら、施設設備補助金が減少し、校舎の改修及び解体により修繕費や資産処分差額を計上した結果、基本金組入前当年度収支差額は△61 百万円となり、前年度より減少した。

2018 年度から 2022 年度までを対象とした「第 3 期学園中長期計画」に基づき、学園の財政基盤の安定化を図るべく、今後も学生生徒園児の確保に注力し、教育の質及び学生へのサービス向上のために、ハード・ソフト両面からの投資は引き続き積極的に行いながら、人件費や経費の支出の制御に努める。

管理運営体制については内部統制の強化を図っていく。

IV. 財務の概要（平成 29 年度決算の概要）

1. 資金収支計算書

（単位：百万円）

| 収入の部 | | | |
|-------------|----------|----------------|----------|
| 科 目 | 平成 28 年度 | 平成 29 年度（補正予算） | 平成 29 年度 |
| 学生生徒等納付金収入 | 4,359 | 4,446 | 4,466 |
| 手数料収入 | 81 | 77 | 63 |
| 寄付金収入 | 8 | 0 | 20 |
| 補助金収入 | 1,639 | 1,131 | 1,274 |
| 資産売却収入 | 3 | 2 | 2 |
| 付随事業・収益事業収入 | 90 | 78 | 89 |
| 受取利息・配当金収入 | 24 | 15 | 17 |
| 雑収入 | 136 | 109 | 128 |
| 前受金収入 | 837 | 928 | 761 |
| その他の収入 | 176 | 569 | 570 |
| 資金収入調整勘定 | △1,421 | △926 | △1,043 |
| 前年度繰越支払資金 | 3,820 | 2,453 | 2,453 |
| 収入の部合計 | 9,753 | 8,882 | 8,800 |
| 支出の部 | | | |
| 科 目 | 平成 28 年度 | 平成 29 年度（補正予算） | 平成 29 年度 |
| 人件費支出 | 3,421 | 3,541 | 3,484 |
| 教育研究経費支出 | 1,081 | 1,386 | 1,401 |
| 管理経費支出 | 495 | 488 | 501 |
| 施設関係支出 | 1,893 | 314 | 252 |
| 設備関係支出 | 200 | 125 | 111 |
| 資産運用支出 | 204 | 101 | 130 |
| その他の支出 | 234 | 222 | 251 |
| 予備費 | - | 20 | - |
| 資金支出調整勘定 | △227 | △140 | △285 |
| 翌年度繰越支払資金 | 2,453 | 2,825 | 2,955 |
| 支出の部合計 | 9,753 | 8,882 | 8,800 |

(1) 収入の部

学生生徒等納付金収入は、主として大学・新設学部の学年進行により法人全体の学生・生徒数が前年度と比べて増加し、予算比 20 百万円増加、前年度比 107 百万円増加の 4,466 百万円となりました。

手数料収入は、入学検定料収入が減少したため、予算比 14 百万円減少、前年度比 18 百万円減少の 63 百万円となりました。

寄付金収入は、予算比 20 百万円増加、前年度比 12 百万円増加の 20 百万円となりました。

補助金収入は、予算比では 143 百万円増加したものの、前年度において高校新校舎建築工事に係る補助金収入があったため、前年度比 365 百万円減少の 1,274 百万円となりました。

付随事業・収益事業収入は、予算比 11 百万円増加、前年度比 1 百万円減少の 89 百万円となりました。

受取利息・配当金収入は、預金金利の低下のため、予算比では 2 百万円増加したものの、前年度比 7 百万円減少の 17 百万円となりました。

雑収入は、予算比では 19 百万円増加したものの、前年度よりも私立大学退職金財団からの交付金収入が減少したため、前年度比 8 百万円減少の 128 百万円となりました。

前受金収入は、奨学金支給対象者が想定以上に多かったため、予算比 167 百万円減少、前年度比 76 百万円減少の 761 百万円となりました。

その他の収入は、前年度における高校新校舎建築に係る補助金の未収入金が入金されたため、予算比 1 百万円増加、前年度比は 394 百万円増加の 570 百万円となりました。
その結果、収入の部合計は、予算比 82 百万円減少、前年度比 953 百万円減少の 8,800 百万円となりました。

(2) 支出の部

人件費支出は、大学・新設学部の学年進行に伴う教員増による人件費増の影響と、勤続年数が比較的長い教職員の退職が多かったため、予算比では 57 百万円減少したものの、前年度比は 63 百万円増加の 3,484 百万円となりました。

教育研究経費支出は、高校 1 号館改修工事に伴う修繕費や短大 2 号館及び蜂の巣校舎の解体工事に係る費用があり、また、報酬委託手数料等が増加したため、予算比 15 百万円増加、前年度比 320 百万円増加の 1,401 百万円となりました。

管理経費支出は、大学開学 20 周年及び高校新校舎竣工記念事業があり、また、その他の経費が増加したため、予算比 13 百万円増加、前年度比 6 百万円増加の 501 百万円となりました。

施設関係支出は、高校 1 号館改修工事に係る支出があったものの、予算比で 62 百万円減少しました。また、前年度に高校本館建築工事に係る支出があったため、前年度比でも 1,641 百万円減少の 252 百万円となりました。

設備関係支出は、大学本館の空調機や高校 1 号館改修にかかる備品の購入があったものの、予算比で 14 百万円減少しました。また、前年度に高校本館建築にかかる備品購入等の支出があったため、前年度比でも 89 百万円減少の 111 百万円となりました。

資産運用支出は、退職給与引当特定資産繰入支出 29 百万円、収益事業元入金支出 30 百万円、減価償却引当特定資産への繰入 71 百万円の合計額であり、退職給与引当金の増加に伴い退職給与引当特定資産繰入支出が増加したため、予算比では 29 百万円増加しました。一方、前年度比では 74 百万円減少の 130 百万円となりました。

(3) 翌年度繰越支払資金

上記の結果、翌年度繰越支払資金は予算比 130 百万円増加、前年度比 502 百万円増加の 2,955 百万円となりました。

2. 事業活動収支計算書

(単位：百万円)

| 科目 | 平成 28 年度 | 平成 29 年度(補正予算) | 平成 29 年度 |
|---------------|----------|----------------|----------|
| 学生生徒等納付金 | 4,359 | 4,446 | 4,466 |
| 手数料 | 81 | 77 | 63 |
| 寄付金 | 8 | 0 | 22 |
| 経常費等補助金 | 1,190 | 1,099 | 1,180 |
| 付随事業収入 | 90 | 78 | 89 |
| 雑収入 | 136 | 109 | 127 |
| 教育活動収入計 | 5,864 | 5,809 | 5,948 |
| 人件費 | 3,463 | 3,528 | 3,495 |
| 教育研究経費 | 1,618 | 1,959 | 1,975 |
| 管理経費 | 538 | 535 | 547 |
| 徴収不能額等 | 1 | 0 | 0 |
| 教育活動支出計 | 5,619 | 6,021 | 6,017 |
| 教育活動収支差額 | 245 | △212 | △68 |
| 受取利息・配当金 | 24 | 15 | 17 |
| 教育活動外収入計 | 24 | 15 | 17 |
| 教育活動外支出計 | 0 | 0 | 0 |
| 教育活動外収支差額 | 24 | 15 | 17 |
| 経常収支差額 | 269 | △197 | △52 |
| 資産売却差額 | 3 | 2 | 2 |
| その他の特別収入 | 464 | 32 | 104 |
| 特別収入計 | 467 | 34 | 106 |
| 資産処分差額 | 62 | 93 | 113 |
| その他の特別支出 | 2 | 0 | 2 |
| 特別支出計 | 64 | 93 | 115 |
| 特別収支差額 | 403 | △59 | △9 |
| 〔予備費〕 | - | 20 | - |
| 基本金組入前当年度収支差額 | 672 | △276 | △61 |
| 基本金組入額合計 | △1,474 | △318 | △78 |
| 当年度収支差額 | △802 | △594 | △139 |
| 前年度繰越収支差額 | △1,996 | △2,723 | △2,723 |
| 基本金取崩額 | 75 | 65 | 99 |
| 翌年度繰越収支差額 | △2,723 | △3,252 | △2,763 |
| (参考) | | | |
| 事業活動収入 | 6,355 | 5,858 | 6,071 |
| 事業活動支出 | 5,683 | 6,134 | 6,132 |

(1) 教育活動収支

教育活動収入は、学生生徒等納付金等の増加により予算比 139 百万円増加、前年度比 84 百万円増加の 5,948 百万円となりました。

教育活動支出は、予算比では 4 百万円減少したものの、人件費、教育研究経費、管理経費が前年度より増加したため、前年度比は 398 百万円増加の 6,017 百万円となりました。

その結果、教育活動収支差額は予算比 144 百万円増加、前年度比 313 百万円減少の△68 百万円となりました。

(2) 教育活動外収支

教育活動外収支は、予算比では 2 百万円増加したものの、受取利息・配当金の減少により、前年度比は 7 百万円減少の 17 百万円となりました。

その結果、教育活動外収支差額は予算比 2 百万円増加、前年度比 7 百万円減少の 17 百万円となり、経常収支差額は、予算比 145 百万円増加、前年度比 321 百万円減少の△52 百万円となりました。

(3) 特別収支

特別収入は、車両売却差額及び現物寄付等を計上したため、予算比は 72 百万円増加しました。一方、施設設備補助金が減少したため、前年度比は 361 百万円減少の 106 百万円となりました。

特別支出は、図書除却差額を計上したため、また、短大 2 号館及び蜂の巣校舎の解体撤去に伴い、建物処分差額等が発生したことにより、予算比 22 百万円増加、前年度比 51 百万円増加の 115 百万円となりました。

その結果、特別収支差額は、予算比 50 百万円増加、前年度比 412 百万円減少の△9 百万円となりました。

(4) 当年度収支差額等

基本金組入前当年度収支差額は、前年度よりも学生生徒等納付金が増加したものの、施設設備補助金が減少し、高校 1 号館の改修に伴う修繕費や短大 2 号館及び蜂の巣校舎の解体に伴う資産処分差額を計上したことなどにより、予算比 215 百万円増加、前年度比 733 百万円減少の△61 百万円となりました。

基本金組入額合計は、高校 1 号館改修工事に係る第 1 号基本金への組入 125 百万円、除却した蜂の巣校舎に係る第 1 号基本金の減少 132 百万円などがあり、予算比 240 百万円減少、前年度比 1,396 百万円減少の 78 百万円となりました。

その結果、当年度収支差額は予算比 455 百万円増加、前年度比 663 百万円増加の△139 百万円となりました。また、基本金取崩額 99 百万円があり、翌年度繰越収支差額は予算比 489 百万円増加、前年度比 40 百万円減少の△2,763 百万円となりました。

◆◆◆主要財務比率の経年比較表◆◆◆

| | 算式 | 平成 28 年度 | 平成 29 年度 | 前年度比 | (ご参考) 全国平均※ (平成 28 年度) |
|-----------------|--|----------|----------|--------|------------------------------|
| 人件費比率 | $\frac{\text{人件費}}{\text{経常収入}}$ | 58.8% | 58.6% | △0.2% | 53.6% |
| 人件費依存率 | $\frac{\text{人件費}}{\text{納付金}}$ | 79.4% | 78.2% | △1.2% | 72.8% |
| 教育研究経費比率 | $\frac{\text{教育研究経費}}{\text{経常収入}}$ | 27.5% | 33.1% | 5.6% | 33.0% |
| 管理経費比率 | $\frac{\text{管理経費}}{\text{経常収入}}$ | 9.1% | 9.2% | 0.1% | 9.0% |
| 事業活動収支差額 比率 | $\frac{\text{基本金組入前当年度収支差額}}{\text{事業活動収入}}$ | 10.6% | △1.0% | △11.6% | 4.9% |
| 基本金組入後収支 比率 | $\frac{\text{事業活動支出}}{\text{事業活動収入-基本金組入額}}$ | 116.4% | 102.3% | △14.1% | 107.8% |
| 学生・生徒等 納付金比率 | $\frac{\text{納付金}}{\text{経常収入}}$ | 74.0% | 74.9% | 0.9% | 73.7% |
| 補助金比率 | $\frac{\text{補助金}}{\text{事業活動収入}}$ | 25.8% | 21.0% | △4.8% | 12.3% |
| 減価償却額比率 | $\frac{\text{減価償却額}}{\text{経常支出}}$ | 10.4% | 10.3% | △0.1% | 11.8% |

※大学法人（医療系法人を除く）全国平均「平成 28 年度版 今日の私学財政」より。

(注)「経常収入」＝教育活動収入計＋教育活動外収入計

「経常支出」＝教育活動支出計＋教育活動外支出計

3. 貸借対照表

(単位：百万円)

| 資産の部 | | |
|-------------|----------|----------|
| 科 目 | 平成 28 年度 | 平成 29 年度 |
| 固定資産 | 20,941 | 20,710 |
| 有形固定資産 | 14,502 | 14,142 |
| 特定資産 | 5,862 | 5,962 |
| その他の固定資産 | 576 | 606 |
| 流動資産 | 3,031 | 3,174 |
| 資産の部合計 | 23,973 | 23,883 |
| 負債の部 | | |
| 科 目 | 平成 28 年度 | 平成 29 年度 |
| 固定負債 | 698 | 708 |
| 流動負債 | 1,439 | 1,401 |
| 負債の部合計 | 2,138 | 2,109 |
| 純資産の部 | | |
| 科 目 | 平成 28 年度 | 平成 29 年度 |
| 基本金 | 24,558 | 24,537 |
| 繰越収支差額 | △2,723 | △2,763 |
| 純資産の部合計 | 21,835 | 21,774 |
| 負債及び純資産の部合計 | 23,973 | 23,883 |

(1) 資産の部

有形固定資産は、短大 2 号館及び蜂の巣校舎の解体による建物、構築物の減少などにより、前年度末比 360 百万円減少の 14,142 百万円となりました。

特定資産は、退職給与引当特定資産が 29 百万円、減価償却引当特定資産が 71 百万円増加したことにより、前年度末比 100 百万円増加の 5,962 百万円となりました。

その他の固定資産は、収益事業元入金が増加等により、前年度末比 30 百万円増加の 606 百万円となり、固定資産合計では前年度末比 231 百万円減少の 20,710 百万円となりました。

流動資産は、主として現金預金が増加したため、前年度末比 143 百万円増加の 3,174 百万円となりました。

その結果、資産の部合計は前年度末比 90 百万円減少の 23,883 百万円となりました。

(2) 負債の部

退職給与引当金及び未払金は増加したものの、主として前受金が減少したため、負債の部合計は前年度末比 29 百万円減少の総額 2,109 百万円となりました。

(3) 純資産の部

基本金は、蜂の巣校舎の除却等により第 1 号基本金が減少したため、前年度末比 21 百万円減少の 24,537 百万円となりました。

繰越収支差額（翌年度繰越収支差額）は、2.事業活動収支計算書（4）当年度収支差額等で述べたように、前年度末比 40 百万円減少の△2,763 百万円となりました。

その結果、純資産の部合計は前年度末比 61 百万円減少の 21,774 百万円となりました。

4. 今後の課題

少子化の影響で学生・生徒の確保が厳しい状況ではありますが、当年度は学生・生徒が増加したことにより学生生徒等納付金収入が前年度より増加しました。しかしながら、施設設備補助金が減少し、校舎の改修及び解体により修繕費や資産処分差額を計上した結果、基本金組入前当年度収支差額は△61百万円となり、前年度より減少しました。

2018年度から2022年度までを対象とした「第3期学園中長期計画」に基づき、学園の財政基盤の安定化を図るべく、今後も学生生徒園児の確保に注力し、教育の質及び学生へのサービス向上のために、ハード・ソフト両面からの投資は引続き積極的に行いながら、人件費や経費の支出の制御に努めます。

管理運営体制については内部統制の強化を図ります。

※資金収支計算書、事業活動収支計算書、貸借対照表、及び文中の金額は、百万円未満を四捨五入しています。

【資料編】

関西福祉科学大学

1. 平成 29 年度進路状況

(単位：名)

| | 全体 | 社会福祉学部 | | 健康福祉学部 | | 保健医療学部 リハビリテーション学科 | |
|-------|-------|--------|--------|--------|--------|-----------------------|---------|
| | | 社会福祉学科 | 臨床心理学科 | 健康科学科 | 福祉栄養学科 | 理学療法学専攻 | 作業療法学専攻 |
| 卒業生 | 491 | 168 | 75 | 87 | 61 | 72 | 28 |
| 就職希望者 | 453 | 159 | 57 | 83 | 60 | 69 | 25 |
| 就職決定者 | 447 | 155 | 56 | 82 | 60 | 69 | 25 |
| 就職決定率 | 98.7% | 97.5% | 98.2% | 98.8% | 100% | 100% | 100% |
| 進学希望者 | 13 | 2 | 9 | 1 | 1 | 0 | 0 |
| 進学決定者 | 13 | 2 | 9 | 1 | 1 | 0 | 0 |
| 進学率 | 100% | 100% | 100% | 100% | 100% | — | — |

(平成 30 年 5 月 1 日現在)

2. 平成 29 年度資格取得状況

(単位：名)

| 学部・学科・専攻・専攻科 | | 社会福祉士 | 精神保健福祉士 | 保育士 | 第一種衛生管理者 (単位取得者) | 管理栄養士 | 栄養士 | フードスペシャリスト | 理学療法士 | 作業療法士 | 養護教諭一種免許状 | 栄養教諭一種免許状 | 高等学校教諭一種免許状「公民」 | 高等学校教諭一種免許状「福祉」 | 高等学校教諭一種免許状「保健」 | 中学校教諭一種免許状「社会」 | 中学校教諭一種免許状「保健」 | 特別支援学校教諭一種免許状 (単位取得者) |
|--------------|------------------------|-------|---------|-----|---------------------|-------|-----|------------|-------|-------|-----------|-----------|-----------------|-----------------|-----------------|----------------|----------------|--------------------------|
| 社会福祉学部 | 社会福祉学科 | 39 | 11 | 15 | / | / | / | / | / | / | / | / | 7 | 3 | / | 2 | / | / |
| | 臨床心理学科 | / | 3 | 8 | / | / | / | / | / | / | / | / | / | / | / | / | / | / |
| 健康福祉学部 | 健康科学科 | / | / | / | 75 | / | / | / | / | / | 73 | / | / | / | 17 | 16 | 3 | / |
| | 福祉栄養学科 | / | / | / | / | 47 | 60 | 10 | / | / | / | 6 | / | / | / | / | / | / |
| 保健医療学部 | リハビリテーション学科 理学療法学専攻 | / | / | / | / | / | / | / | 66 | / | / | / | / | / | / | / | / | / |
| | リハビリテーション学科 作業療法学専攻 | / | / | / | / | / | / | / | / | 27 | / | / | / | / | / | / | / | / |
| 特別支援教育専攻科 | | / | / | / | / | / | / | / | / | / | / | / | / | / | / | / | / | / |

※現役での取得者数
(平成 30 年 5 月 1 日現在)

関西女子短期大学

1. 平成 29 年度進路状況 (単位：名)

| | 全体 | 保育学科 | 養護保健学科 | 歯科衛生学科 | 医療秘書学科 |
|-------|-------|------|--------|--------|--------|
| 卒業者 | 283 | 104 | 36 | 104 | 39 |
| 就職希望者 | 258 | 88 | 34 | 98 | 38 |
| 就職決定者 | 254 | 88 | 34 | 94 | 38 |
| 就職決定率 | 98.4% | 100% | 100% | 95.9% | 100% |
| 進学希望者 | 4 | 4 | 0 | 0 | 0 |
| 進学決定者 | 4 | 4 | 0 | 0 | |
| 進学率 | 100% | 100% | — | — | — |

(平成 30 年 5 月 1 日現在)

2. 平成 29 年度資格取得状況 (単位：名)

| 学科 | 歯科衛生士 | 保育士 | 幼稚園教諭二種免許状 | 養護教諭二種免許状 | 中学校教諭二種免許状「保健」 | 医療秘書士 | 介護福祉士 | 社会福祉主事任用資格 | 診療情報管理士 |
|----------|-------|-----|------------|-----------|----------------|-------|-------|------------|---------|
| 保育学科 | | 92 | 100 | | | | | 103 | |
| 養護保健学科 | | | | 35 | 6 | | | 36 | |
| 医療秘書学科 | | | | | | 31 | — | 39 | |
| 歯科衛生学科 | 97 | | | | | | | 102 | |
| 医療秘書学専攻科 | | | | | | | | | 0 |

※現役での取得者数
(平成 30 年 5 月 1 日現在)

関西福祉科学大学高等学校

1. 平成 29 年度進路状況 (単位：名)

| | 全体 | 特別進学 I コース | 特別進学 II コース | 進学 コース | 保育進学 コース |
|-------|-------|---------------|----------------|-----------|-------------|
| 卒業者 | 353 | 21 | 76 | 228 | 28 |
| 進学希望者 | 334 | 21 | 76 | 210 | 27 |
| 進学決定者 | 325 | 20 | 74 | 205 | 26 |
| 進学率 | 92.1% | 95.2% | 97.4% | 89.9% | 92.9% |
| 就職希望者 | 19 | 0 | 0 | 18 | 1 |
| 就職決定者 | 14 | 0 | 0 | 14 | 0 |
| 就職決定率 | 73.7% | — | — | 77.8% | 0% |

(平成 30 年 5 月 1 日現在)

以上